

かや たかゆきの ほうれんそう

愛川町議会議員

第3号

議会の報告

後援会の連絡

皆様からの相談



ワサビのルーツ（原種）が愛川町の半原だった！

・半原ワサビは100年の歴史を持つ！！

日本には3つのワサビの原種があり、その中の1つが半原ワサビとして100年前から愛川町の半原地域で作られていました。今は作る後継者が途絶え、残る株は300程と貴重な存在です。

・半原ワサビは伊豆のワサビ園を助けた！！

半原ワサビはとても病害に強い優良な品種で、伊豆のワサビ園で病気が発生して全滅しそうになった時に、半原ワサビの株を分けてあげて伊豆のワサビを助けたという歴史があります。

・愛川町の農産物の文化を守ろう！！

半原ワサビの文化を守る為には、ワサビを作る後継者を作る事、そして作る場所を探したり環境を整備する事。そして、文化を守る為には商標を登録したりすることも大切であると考えます。

・若者たちが立ち上がる！！

現在、半原ワサビの文化を後世に残すべく、愛川町の若手農家さんが栽培をしていくために名乗りを上げて研究を始めました。

・愛川料理の誕生へ！！

ワサビを作るだけでは歴史や文化は守れません。当然販売して物流していかないとけません。なので、愛川町のレストランや旅館、カフェなどで半原ワサビや愛川で作られた野菜等を使った料理を開発して頂き、愛川町の名物にしていきたいです。

・新しいシティーセールスで未来を描こう！！

半原ワサビは今後のシティーセールスにて大きな武器になると思います。料理でのPRはもちろんですが、ワサビは水が綺麗というイメージ戦略が出来るので、今後の観光・産業拠点づくり事業での売りにもなります。そして、水が綺麗なので新しく愛川町で農業を始めたいという農家さんも出てくるかもしれません。そうすれば人口増加や雇用の創出の一助になると考えます。



実際の半原ワサビの写真

愛川町の文化の継承のために海底和紙を全ての小中学生の卒業証書や町の表彰に！

・角田の海底地域では昔に和紙が作られていた！

江戸時代の寛政年間（1789～1801）に信濃国で製紙法習得して、手すき和紙の生産が愛川町角田の海底地区にて生産が始められたと云われており、その最盛期は大正初期から昭和10年頃までと云われています。

・文化の継承をする為にも和紙を守ろう！

現在は文化を守る為、愛川繊維産業会館にて「紙すき体験」を実施しています。そして、海底地区の学区である田代小学校から始まり、半原小学校、高峰小学校の児童達が紙すきをして卒業証書を作成しています。まだ中津方面の小学校で実施されていないので、愛川町全体で実施して文化の継承が出来るようにしていきたいと思ひます。



・和紙を通じて小学生に心の教育を！

愛川町独特の和紙文化を通じて、児童が小学校の卒業の前に、和紙で作られたハガキに親へ6年間の感謝の言葉を書いて、郵送して卒業式の前日に自宅に届くようにすると、卒業式の日には児童から親へ手渡し出来るようにしたりと、和紙を通じて児童に心の教育をすると共に、親の世代にも和紙の文化を親の世代にも広めていくことが必要だと感じます。

・町の表彰でも海底和紙を使って文化の継承を

町での表彰は、町への功績を称えるものなので、海底和紙を使った表彰状を使うべきだと考えます。町章もスカシで入るので表彰者も重みのある表彰状なので、まちの為に頑張った証となるので嬉しいと思ひます。

←実際の海底和紙の卒業証書（校章のスカシ入り）

顔の見える政治を目指して！

身近に感じて頂ける議員を目指す為には顔を覚えて頂く必要があります。私は、タイトルにもあるように顔の見える政治を心がけて行きたいと思ひます。なので、皆様に顔が見えるように毎週火曜日の朝に一本松交差点にて朝のご挨拶をしていますので、是非、お気軽に声をかけてください。



愛川町の最新情報

現在の愛川町内における新型コロナウイルス感染者数

感染者内訳

30代	女性	1名
10歳未満	男性	1名
60代	女性	1名
60代	男性	1名
40代	男性	1名
70代	女性	1名
70代	男性	1名
30代	男性	1名
80代	男性	1名
80代	男性	1名

現在の感染者数10名

8月20日現在

6月上旬まで7名の感染者数でしたが、7月下旬に1名増えて、8月中旬に2名増えました。まだまだ油断できない状況が続きますので、3密の状況を避けて、マスク・手洗い・ウガイの徹底をして感染症の予防に努めましょう。※左記の表は、上から感染患者発生順

コロナ感染対策に注意しましょう

頑張ろう愛川町

かや たかゆきの活動報告 6月～8月



6月議会や9月議会では議会でも感染症予防のために、質問席の前にクリアボードを設置しています。



愛川町青少年指導員連絡協議会の代表として愛川町社会教育委員会議に出席をして、町の社会教育について活動します。



地域の自治会の方とお話をしていたら、なんと有名小説家の「松本清張」さんが「相模国愛甲郡中津村」という小説を昭和39年に発行していたことを知りました。



宮ヶ瀬ダム
の視察です。
緊急放流があつた場合、半原では約30分、田代角田では約45分、中津では約1時間で水が到着し始めますので早めの避難が必要です



会派あいかわの聲にて「よろず相談会」を開催しました。多くの方々の悩みや相談が聞け、解決策などを話し合えました。



二井坂区内の横断歩道前に設置されている、あいちちゃんマークの注意シールが薄くなっているとのことで、新しく貼り直して頂きました。



愛川町青少年指導員連絡協議会の会議です。青少年の健全な育成やジュニアリーダー達の応援の為に全力で活動をしています。



二井坂区自治会の関連団体で、青少年指導員として夏と冬の年二回パトロールをしています。若者のたまり場や防犯灯のチェックなども同時に行っています

愛川町へ要望中 ～暮らしでお困りならご相談ください～

愛川町での暮らしにお困りなことや要望がありましたら、何でもかや たかゆきにご相談ください！内容をお聞きして、町の担当課とかや たかゆきが話し合い、解決に向けて迅速・全力で取り組んで参ります！！

現在の要望

①狭い歩道の拡張について 一本松交差点の東側の歩道が狭くて人の行き違いが出来なかったり、自転車の乗り入れで危険なので何とかして欲しい！とのご要望がありました。



②野良猫について 野良猫が繁殖しているので、どうしたら良いか？とのご要望がありました。ご近所さんや保健所、ボランティアさんと相談し、解決に向けて動いていきます。



③災害弱者・障がい者・高齢者などの災害避難について 台風などで避難をする時に、病気などで酸素ボンベが常に必要で、避難場所でも電源などが必要な方が居ます。避難所などで停電があると医療機器なども止まってしまうので不安で避難が出来ないとのことでした。災害時要援護者避難支援制度という事前に近隣で助け合う仕組みを作る制度を活用し、緊急避難の際は周りの人達で助け合ひましょう。

連絡先：かや たかゆき 090-3695-9357

第2号にて新型コロナウイルス感染症の詳細について誤りがありました。10代女性ではなく10歳未満男性。20代男性ではなく、30代女性。の誤りでした。第3号の表面が正確な詳細となります

災害では「自助」「共助」「公助」の精神を

災害への備えを考えると、「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ることです。この中には家族も含まれます。「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことをいいます。そして、市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助が「公助」です。大きな災害の初期対応では「自助」「共助」がとても大切になってきます。一人ひとりが、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えを持ち、日ごろから災害に備えて心構えておくことが重要です。

災害弱者を守ろう！

国から発表される防災気象情報の警戒レベル3では高齢者や災害弱者は避難や避難準備などをしてレベル3時点で出来る限り判断しましょう。そして警戒レベル4では避難をして、警戒レベル5では命を守る最善な行動をお願いします。



その為には洪水災害を把握するために洪水ハザードマップで確認をお願いします。町のホームページに愛川町を4つのエリアに分けたハザードマップがございます(右のQRコード)また山や崖が近い場所においては土砂災害にも注意しましょう！もしもの時は垂直避難や、近所の方に協力してもらおう地域の高台の知り合い宅に避難をするなど、身の安全を確認し、外が明るいうちに判断をしましょう！



かや たかゆきの政治理念

愛川町に生まれた子ども達が、沢山の地域の方々と愛を持って触れ合いながら成長し「大人になっても生まれ育った愛川町で仕事をしたい」「結婚しても自分の子どもを愛川町で育てたい」と思えるような地域愛醸成の環境整備をします。その為には、愛川町で仕事出来るよう商・工・農を充実させて地域経済のボトムアップを図り、雇用を促進し「やりがい」のある地域に根差した仕事出来るように質の向上を目指します。そして定年後も、地域のコミュニティや子ども達とのふれあいを通じ、健康寿命を延ばして幸せな人生を送れるような、心が豊かな社会を創造していきます。さらに、町民のボランティア意識を向上させ、みんなで自分達の「まち」を良くしようと思う人達の輪を広げ、愛川町の夢と希望を次世代に繋げていきます。心豊かな子育てから始まり、地域愛を持った教育、そして生きがいを持った仕事をして、老後は健康で地域や子ども達の為に生きていける、0歳から100歳までの循環型社会の「愛のあるまちづくり」を目指します。

ボランティア歴

茅 孝之 46歳 無所属
愛川町消防団第3分団第3部 元部長
厚木青年会議所 第46代理事長
あいちちゃん商店会 初代会長
二井坂区自治会 元庶務
愛甲商工会青年部 元委員長
愛川町消防団支援隊 隊員
愛川町社会教育委員 委員
愛川町子ども会連絡協議会 理事
愛川町青少年指導員 指導員
中津小学校子ども会連絡協議会 理事
中津中央商店会 元会長
愛川町消防団3分団3部 OB会 会長
県立愛川高校 明日楓会 元運営委員
あいかわ町災害ボランティアネットワーク 賛助会員
NPO法人 防犯パトロール ブルーライン 賛助会員
座間自衛隊愛川協力会 会員

編集後記

多くの方々からほうれんそうに対してアドバイスを頂きました。「文字が小さくて読みづらい」「そもそも文字ばかりで読もうとしないよ」などの助言を頂き、第3号は色々と反映をさせて頂きました。自分だけで作ると「もっと細かく内容を伝えたい！」となるので写真を削ったり、文字を小さくしてしまいます。まずは、皆様に読んで頂ける事を第1に考え、常に試行錯誤をしていきます。もし、こんな風にしたら良いよ！などのアドバイスがあればドシドシお願いします♪

発行日：2020年9月4日 第3号

討議資料

編集・発行：かや たかゆき後援会

連絡先：愛川町中津3552



TEL090-3695-9357 Fax 046-286-7872 Mail takayuki@8744.co.jp